

(3)

オンラインコンサルティング

お部屋の悩みがある方

インテリアの基本

お部屋作りの下準備

インテリアコンセプト

お部屋作りによくあるお悩み

ZOOMまたはメール

オンラインコンサルティング

このような方におすすめです

- ①お部屋の現状を写真で見てもらいアドバイスが欲しい。
- ②引っ越しせず現状で、今より良い空間を作りたい。
- ③今より快適な空間にするためのアドバイスが欲しい。
- ④目的に合ったインテリアを教えてほしい。

インテリアコンサルをするとこんな良いことが

- ★他の人と同じではなく、オリジナルのある空間に出来るため満足度が高くなる。
- ★一人で部屋の事で悩んでいたことを相談して解決へと導くことが出来ます。
- ★住宅で日々のテンションを上げるためのお手伝いが出来ます。
- ★自分の好きな空間に住む確率があがります。

4

インテリアの基本

基本的に正解不正解はない！というのがインテリアの世界なんです。

しかし、失敗や成功はあるという世界でもあります。色合わせについても自由ですし、何色を合わせても良いのですが、色の配色を間違えると心地よくない空間になってしまう事も起こってしまいます。

それらを踏まえて、最終目的とするものは、自分が一番好きな空間を見つけることです。そして、そのような空間に身を置くことで、居心地が良いと実感出来る事だと思います。

インテリアづくりには、セオリーがありますので、そこを抑えてもらえれば心地よい空間というものは誰でも作れます。

自分は何が好きで何が嫌いか、ということを知ることがとても大事です。

好きが分からない場合は、自分の好きなお店を思い浮かべてみましょう。

そこは、カフェでしょうか？それでもホテルのロビー？もしくは雑貨屋さん？行きつけの美容室でしょうか。

例えば、カフェならそのインテリアはどうなっていたかを想像してみましょう。

床の色・壁の色・天井の色。そしてどんなカーテンやどんな照明を使っていたでしょうか。

窓は大きいですか？小さいですか？室内は明るいですか、暗いですか。

それらを意識して、どんな部分が好きなのか、実際お店に行って確認してみてください。

自分の好きな色や素材や空間はどんなところでしたか？これが、自分の好みを発見することが出来る簡単な方法の一つとなります。

逆に好きな店がどんな店かを想像して、なぜそこが嫌いなのかをピックアップしてみるのも良いでしょう。

失敗事例の紹介

事例1：ネットで家具を買って失敗。

これは、皆さんも経験があるのではないのでしょうか？ネットでは、わかりづらい部分が沢山あります。例えば、家具の匂い。これは安い家具に多い現象です。体に良くないポンドなど使っていたりすると悪臭がきつくなり、健康を害します。

また、大きさ確認を怠るケースも多く、大きすぎた、小さすぎた、重すぎた、解体できい。国産はほぼ大丈夫なのですが、海外のものはそもそもテーブルや椅子の高さが大きな海外の方向けだったりするので注意が必要です。また

安い家具も耐久性に問題があるものが多いので注意が必要です。
最近の家は開放的な空間が多くて壁が少なすぎ、インテリアを美しくできないケースもあります。

事例2：壁面が極端に少ない家。

壁は家を支えるために構造的にも大事ですが、同様に美しい部屋を作る上でもかなり重要になります。海外のインテリアの写真を見られるとわかると思うのですが、壁がインテリアの重要な部分と分かります。ソファの後ろはほぼ壁に付けて、そこに大きな絵が飾られています。装飾したりするキャンバスは広い方が美しい空間に作り上げることが出来ます。すべてを開放的すぎるとスイッチの位置も不便な場所に移動しなければならないという不具合も

事例3：便利すぎて不便に。

便利な商品。例えば勝手につく照明。そればかりの部屋に仕上げすぎるとメンテナンスに苦労します。電気物は必ず壊れますので、自分がメンテナンス出来ないものは必ずメンテナンス料金が発生すると覚えていてください。
家中すべて便利にしすぎると後々大変になります。

人感センサー照明や自動水栓も流行ってますが、本当に必要な場所、適材適所を考えて入れると良いでしょう。

事例4：家具店で買っても失敗？

家具を家具店で買っても失敗することがあります。家具屋さんは空間が広すぎるので、家具が大きく見えないのです、家に入れたら思いのほか大きくて困ったなんて話もしもよく聞きます。家具店には必ず凶面とメジャーを持っていきましょう。

事例5：サイズ感覚が分かっていなかった。

お客様との打合せの時にこの部屋の窓の大きさわかりますか？とお尋ねてわからない方って以外と多いんです。必ずメジャーで窓の大きさは確認する癖をつけると良いでしょう。窓も大きすぎてカーテンの金額がびっくりするくらい跳ね上がった、吹き抜けに窓を多く作りすぎて、電動ロールスクリーンの金額が高すぎてびっくり、なんてこともありますので、窓をたくさんつける場合、カーテンにどれくらい金額がかかるのかも視野に入れていた方が良いでしょう。空を眺めたいなら透明ですが、窓のお掃除の事も頭に入れておくとさらに良いでしょう。

事例6：窓の大きさが分かっていなかった。

私が風水を学んでいる観点から言うと凹凸はあまりよくありません。インテリアの目線で考えても装飾するときには邪魔になりやすく、目線がそちらに向かいがちなので小さなストレスがかかります。

本当にこだわりのある設計士さんならなるべく凹凸の少ない空間づくりを提案してくれるでしょう。

事例7：凹凸を気にしていなかった。

ここでいう凹凸とはハリ、下がり壁などの出っ張った部分やへこんだ部分の事です。

5

お部屋作りの下準備

インテリアを成功させるための三種の神器がこちらの

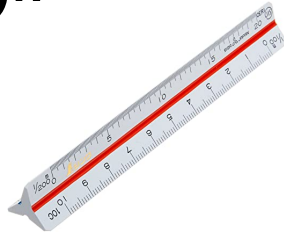
その1：メジャー



これだけはすぐにそろえてください。

メジャーも柔らかい裁縫用のものではなくこの写真のような現場のプロも使っているものをご購入ください。ストッパー付きがかなり便利なのでこちらがおすすめです。DIYショップなどにも売っているので5.5メートルくらいが良いでしょう。天井窓回り、家具からカーテンすべてのインテリアがこれで大きさを測る事が出来ます。

その2：三角スケール



次に三角スケールといわれる、図面用の定規です。プロが使うものじゃないの？と思われいますが、家作りインテリアをきれいに成功させたい方には、こちらが必須道具となります。建築士用と書いてあるものが良いです。

三方向にそれぞれ数字が書いてありますが、

1：100もしくは、1：50と書いてある方向を図面に合わせることで、通路の幅やドアの間口の大きさを確認をすることが出来ます。

その3：図面（50分の1）



設計士さんをお願いして50分の1の平面図をもらいましょう。（100分の1も可）

それから、図面も必要です。

設計士さんに50分の1か100分の1の図面をまずはもらいましょう。

50分の1の図面なら、三角スケール1：50でサイズを測ることが出来ます。

100分の1の図面なら、三角スケール1：100でサイズを測ることが出来ます。

図面上で大体のサイズが測れたら、ソファが多すぎるのか窓が小さすぎるのか自分でもチェックすることが出来るので、失敗を防ぐことが出来ます。

こんなはずではなかったという項目を一つずつなくしていきましょう。

6

お部屋のコンセプトの立て方

コンセプトとは方向性（目標）を立てる事になります。

コンセプトってなんだか難しそうと思いますが、そんなことはありません。これからご説明していきますので、一緒に探っていきましょう。プロのインテリアコーディネーターもモデルハウスのような部屋を作る場合、コンセプトを明確に作って方向性を決める事が多いです。

簡単に言うところな感じです。 **家でホームパーティーを月一回開きたい。**

友人を呼んでゆったり過ごしたい。

動物と共存できる空間にしたい。

家族団欒出来る空間を一番大切にしたい。

自分の落ち着ける空間が欲しい。

モデルハウスのような自慢できる家にしたい。

仕事を成功させる空間を作りたい。

宅のみで盛り上がりたい。

コロナ過でも家で健康に快適に暮らしたい。

という感じがじせつがら増えてきているのではないのでしょうか。

夫婦でキッチンに立つことが増えて、キッチンの形や大きさ

キッチンのサイズにも変化や多様性が求められています。

より快適に過ごす方向性のためにも、簡単で構いませんので、

コンセプトはある程度決めておかれると良いでしょう。

その結果、何を優先させてインテリアを決めていくかが明確になってきます

15

お部屋作りによくあるお悩み



お部屋のインテリアを変えて、居心地の良い空間にしたいという方のお悩みの多くが、

家具のレイアウトが分からない。

カーテンをどうやって選んだらよいか分からない。

部屋が暗くてどうにかしたい。

部屋を広く見せる方法を知りたい。

今より、おしゃれな空間にしたい。と思われています。

雑誌を見ても、インスタを見てもピンとくる感じがしない。

という方は意外と多いかと思います。

なぜなら、今は情報が多すぎて、選択できないという弊害が出てきてしまっているからなのです。

そもそも写真の部屋とご自分の部屋は間取りや大きさが同じではないので、特に家具のレイアウトを参考にするのは、非常に難しい問題となります。

雑誌を見てもインスタを見てもなかなか再現するのが難しいというのが現状です。

そこで、インテリアオンラインコンサルは、一つのお部屋の写真を数枚送っていただき、現状を把握したうえでレイアウトの

提案をいたします。メールで写真を送っていただきそれに対してのアドバイスを お伝えいたします。